

令和元年度学校保健講習会及び薬物乱用防止教室講習会 開催報告

千葉県学校薬剤師会

常任委員 杉谷宏枝

令和元年10月27日(日)千葉県薬剤師会会議室にて164名の先生方にご出席いただき、学校保健講習会及び薬物乱用防止教室講習会が開催されました。台風15号、19号、大雨による風水害の被害に遭われた先生もいらっしゃる中、多くの先生にご参加いただき会議室は満席でした。

初めに学校保健講習会として 東京ベイ浦安市川医療センター救急集中治療科 本間洋輔先生に「薬剤師に知ってほしいアナフィラキシーと心臓突然死実技付き」と題してご講演いただきました。まずはアナフィラキシー症状やエピペンの適応についての説明後、先生のご施設での研究から 成人アナフィラキシー患者におけるエピペン使用有無の検討結果をお示しいただきました。その中でエピペンが処方されていたにもかかわらず使用しなかった患者さんが11名おられました。その内訳は 期限切れ7名、使用方法不明1名、使用するタイミング不明1名、副作用が怖い1名、不明1名でした。薬剤師が期限切れ防止のため、患者さんにエピペンのお知らせ通知書の登録を勧めるなど介入できることがあるのではないのでしょうか?次に心臓突然死は日本において1年間に約78,000件起こっており、1日200人以上がお亡くなりになっているとのことです。胸骨圧迫とAEDを行うことにより助かる確率が4倍となり心臓突然死からの社会復帰が可能となります。簡易的トレーニングキットとアニメーションビデオを用いることで胸骨圧迫とAEDの使い方を効率よく学習できるPUSHプロジェクト心肺蘇生トレーニングキットを一人1台ずつお借りして実技を行いました。AEDがどこに置いてあるのかを知り、正しい胸骨圧迫やAEDの使用ができるように定期的な実地訓練を行い 薬剤師から繋ぐ「命の輪」を作ってください!と締めくくられました。

次に薬物乱用防止教室講習会として 関東甲信厚生局麻薬取締部調査総務課の現役の麻薬取締官の先生に「違法薬物の最新情報について」ご講演いただきました。麻薬取締官は厚生労働省に所属し 薬物犯罪についておとり捜査も可能で逮捕、捜査、取り調べを行い拳銃も携帯しておられるそうです。薬物犯罪捜査のみならず 鑑定業務、正規流通の麻薬監視指導、薬物中毒再乱用防止対策、薬物乱用防止啓発活動を業務としています。①最近の動向としては 未成年者に覚醒剤は減少しているが、大麻が増加していることが挙げられます。千葉県は平成29年覚醒剤検挙数が全国5位、大麻検挙数が全国10位でした。②薬物の種類と作用ということで大麻・覚醒剤・コカイン・MDMA・LSD・マジックマッシュルーム・あへん系麻薬・危険ドラッグの薬理作用、有害作用などについて実際の逮捕者の様子などを交えて興味深いお話を伺うことができました。またアメリカコロラド州の大麻解禁により密造密売が減らないこと、ホームレスの増加、労働市場の影響(採用困難)、交通事故の増加、中毒などの救急件数の増加、犯罪発生率の増加が起こっているとの情報をいただきました。③薬物から身を守るため 「1回だけなら」「ちょっとだけ」「疲れがとれる」「気分がスッキリする」と誘われても断る!自分だけではなく家族にも悪い影響を与えてしまう。子供たちに薬物の怖さを教えることが大切であると学校薬剤師にとってとても有意義なお話でした。

今回のご講演を拝聴し、また実際に胸骨圧迫を体験し、青少年の成長過程の早い段階からの救命講習や薬物乱用防止教室などの教育が児童生徒の健康と安全を担うため必要であると改めて認識することができました。今後の学校薬剤師活動に役立てたいと思います。



本間 洋輔 先生



胸骨圧迫 簡易トレーニングの様子